

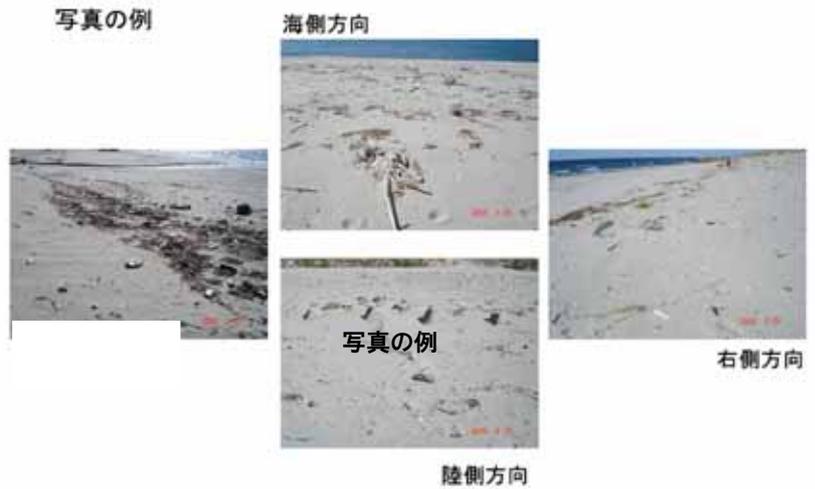
水辺の散乱ゴミの指標評価手法(海岸版)

全国の海岸に面する市区町村の協力のもと、各市区町村は管内で調査地点を偏りのないよう6箇所選定し、その箇所ごとの海岸線延長約100mについて、次を行いました。

① ゴミ漂着状況を写真撮影

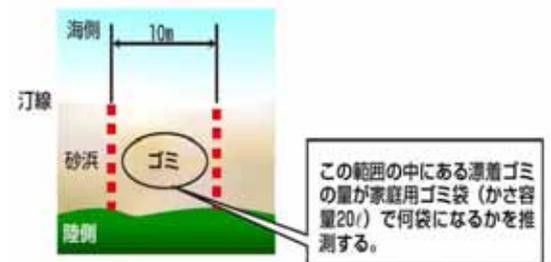


写真撮影のイメージ

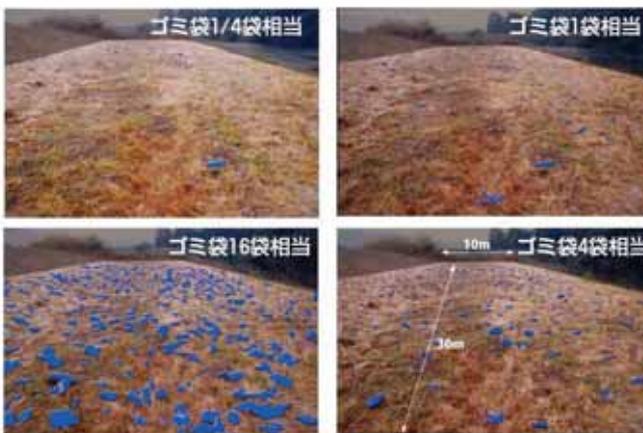


② 目視によるゴミ漂着量の推測

調査箇所100mのうち、漂着ゴミの状況が代表的(平均的)な海岸線延長10mを目視し、下の表や写真を用いて漂着しているゴミ(人工系)の量を推測した。推測結果は①の写真を用いて有識者らによる再確認も行っている。



青い部分がゴミ



ゴミ袋の数量表

(海岸線延長距離10m) × (海岸の奥行き) の範囲の漂着ゴミを回収したと想定

ランク	ゴミ袋の数量(袋) (20ℓ当り)	回収した際のゴミのかさ容量の表現として	かさ容量 (ℓ)
0	0	(自然物を除いて) 全くゴミがない	0
1	約1/8	500m ¹ のペットボトルならば3~4本分程度	2.5
1	約1/4	2ℓのペットボトルならば2本分程度 2ℓのペットボトルならば4本分程度	5
2	約1/2	200~350m ¹ の飲料缶ならば15本分程度 2ℓのペットボトルならば8本分程度	10
3	約1	200~350m ¹ の飲料缶ならば30本分程度 ポリタンクならば1本分程度	20
4	約2	2ℓのペットボトルならば16本分程度 ポリタンクならば2本分程度	40
5	約4	2ℓのペットボトルならば32本分程度 みかん箱ならば3個分程度	80
6	約8	ドラム缶ならば1本分未満	160
7	約16	ドラム缶ならば1.5本分程度	320
8	約32	ドラム缶ならば3本分程度	640
9	約64	1立方メートル程度	1,280
10	約128	軽トラックで1台分程度	2,560

※ 水辺の散乱ゴミ指標評価手法は国土交通省、JEAN/クリーンアップ全国事務局、特定非営利活動法人パートナーシップオフィスが協働で開発したものです。